

鋼・コンクリート合成桁「プレビーム」の施工実績件数が 1000 件を突破

—記念講演会と祝賀会を今年秋に東京と大阪で開催—

平成 20 年 5 月 27 日

プレビーム振興会

■概要■

プレビーム振興会【会長 川田忠樹】(以下プレ振という)は、鋼・コンクリート合成桁「プレビーム」の施工実績が 2008 年(平成 20 年)3 月末で 1000 件に到達したことを発表します。

国内で最初に採用された玉津橋から 40 年の間に、「プレビーム合成げた橋 設計施工指針」や「プレビーム合成げた橋 設計・製作・施工要領書」などの技術資料の整備・改訂を行うとともに、支間長の増大、連続桁、分割工法、鋼板ウェブ、ラーメン梁、下路桁など、数々の技術開発と研究を重ね成長してきました。

■経緯■

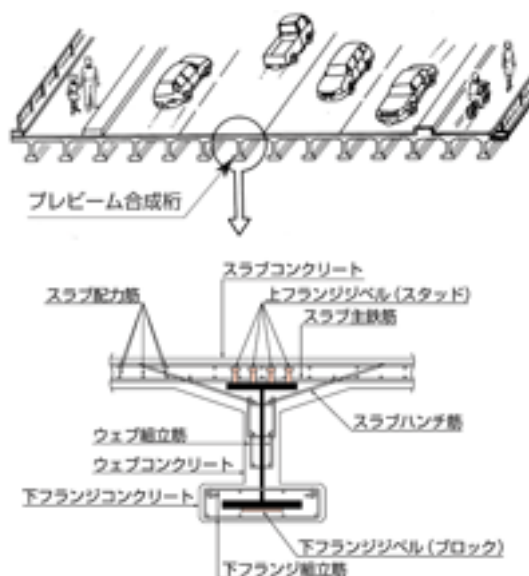
プレビーム合成桁は、1968 年(昭和 43 年)に完成した玉津橋(大阪市)を手始めに、道路橋 877 橋、鉄道橋 29 橋、建築梁 94 件(合計 1000 件)の実績があり、2008 年(平成 20 年)3 月中旬に施工実績 1000 件を達成致しました。国内はもとより、海外でも施工した実績を持っています。純国産の工法で、ここまで広まった工法は他に類を見ず、プレビーム合成桁の製品性能・特性が国内外で認められたものと思われま

す。この 40 年の間に、設計施工指針や施工要領書などの技術資料も整備・改訂され、連続桁や分割工法等も開発されました。またプレビーム合成桁橋の支間長も当初、単純支間長として 18.5m でありましたが、最大 60m を超える支間長を持つ道路橋も可能となりました。

本来このプレビーム合成桁は、他の構造形式では求め難い桁高の低さを特長として開発されたものですが、近年では、コンクリートが鋼桁を包み込む効果として、低騒音・低振動・低維持管理費といった点にも着目され、幅広く採用が増加してきました。今後も、生活関連道路としての跨線橋、跨道橋などで益々発展が期待されています。

■プレビーム合成桁の特徴■

- ・非常に低い桁高の選択が可能
- ・道路線形に対応した構造が可能
(変断面、バチ形等)
- ・低騒音、低振動
- ・軽快な外観
- ・低重心のため架設が容易
- ・添架物の取付けが容易
- ・ライフサイクルコストの低減が可能



■節目となる施工事例■

玉津橋(大阪市):国内初のプレビーム道路橋
富山県議事堂梁(富山県):国内初のプレビーム建築梁
速星駅側線橋(富山県):国内初のプレビーム鉄道橋
口羽跨線橋(島根県):国内初のプレビーム分割工法
第五公庄架道橋(京都府):下路鉄道桁、分割工法
二上大橋(富山県):国内初のプレビーム連続合成桁
松任連絡横断橋(石川県):最大支間 60m の単純桁
大直高架橋(台湾):海外における 1.1km の連続高架橋

■今後の予定■

プレ振は、2008年(平成20年)9月末と10月中旬に東京の学士会館と大阪の建設交流館において「プレビーム 1000 件記念講演会・祝賀会」の開催を予定しており、また、その記念講演会および祝賀会においてプレビーム 1000 件記念誌「プレビームの歩み」を発刊し関係者に配布する予定です。

■用語の説明■

プレビーム振興会:1971年(昭和46年)に、プレビーム工法の振興と技術の向上を図ることを目的として発足し、現在、会員11社、賛助会員1社で構成されています。

プレビーム桁 : 鋼桁とコンクリートを合成し、プレフレクション工法によりプレストレスを導入した桁です。

プレビーム合成桁:プレビーム桁を用いた合成桁。他形式に比べ非常に低い桁高で設計施工が可能であり、桁剛性が大きいことから桁高が制限される橋梁の桁、建築物の梁等に多く適用されています。

■お問合せ先■

プレビーム振興会 事務局

担当:渡辺、岩崎

東京都北区滝野川 1-3-11

Tel:03-3915-5394、Fax:03-3915-5394

<http://www.prebeam.jp>

【プレス発表／取材に関する窓口】

プレビーム振興会 事務局

担当:渡辺、岩崎

東京都北区滝野川 1-3-11

Tel:03-3915-5394、Fax:03-3915-5394